

JACET-Kanto Newsletter

一般社団法人大学英語教育学会関東支部

March 31, 2014 No.2

JACET 関東支部ニューズレター第 2 号 (WEB 版) 刊行に寄せて

支部長 木村松雄 (青山学院大学)

JACET 関東支部ニューズレター (WEB 版) 第 2 号をお届け致します。関東支部ニューズレター委員会委員長の高木亜希子先生 (青山学院大学) と副委員長の下山幸成先生 (東洋学園大学) を初めとする多くの先生方の不断のご尽力に改めて衷心より御礼を申し上げます。

既にご承知の通り、2013 年度より学術研究論文は「関東支部紀要」に掲載し、それ以外の報告は「ニューズレター (WEB 版)」(年 2 回) に掲載することとなりました。今回は 2013 年度の 2 回目のニューズレターとなります。2013 年度下半期の活動の記録が中心となりますが、上半期の活動を記した [1 回目のニューズレター](#) と合わせて是非ご覧頂きたく存じます。年間を通して見てみますと、6 月に開催した第 7 回関東支部大会以外に、月例研究会が企画した講演会が 3 回、青山学

院英語教育研究センター・JACET 関東支部共催による講演会が 5 回開催されています。参加者の総数は凡そ 800 名ほどになるかと思えます。回を重ねる度に、支部の域を超えて参加して下さる方の数が増えていることと、熱心な若手の研究者の数が増えていることを知り、企画・運営に当たっている我々執行部は喜びを隠せません。学会活動の中核は「研究発表を行うことと成果を共有すること」を改めて認識することができました。2014 年度も会員の皆様に喜んで参加して頂けるような講演会を提供致しますので、奮ってご参加頂きますよう御願致します。また今回は、支部幹事の山口高領先生 (早稲田大学) を中心に関東支部会員を対象にして行ったアンケート調査の結果も掲載しておりますので是非ご覧くださいますよう御願致します。お答え頂いた 100 名を

目次

- | | |
|---|---|
| ・ 巻頭言
支部長 木村松雄 - 1 - | ・ 支部研究会活動報告 (2013 年度)
各研究会代表 - 6 - |
| ・ 第 2 回支部総会報告
支部事務局幹事 高木亜希子 - 2 - | ・ 支部アンケート結果報告
支部事務局幹事 高木亜希子 - 12 - |
| ・ 月例研究会報告
月例研究委員会委員長 藤尾美佐 - 3 - | ・ 支部大会運営委員会からのお知らせ
支部大会運営委員長 山口高領 - 13 - |
| ・ 青山学院英語教育研究センター・
JACET 関東支部共催講演会報告
支部事務局幹事 高木亜希子 - 4 - | ・ 支部紀要編集委員会からのお知らせ
支部紀要編集委員長 伊東弥香 - 14 - |
| | ・ 事務局だより
支部事務局幹事 高木亜希子 - 14 - |

超える熱心な会員の皆様のご意見・ご要望は大切に受けとめ、今後の支部活動に活かしていく所存です。さらなるご支援・ご協力を御願い申し上げます。

JACET 関東支部第 8 回 (2014 年度) 支部大会は来る 6 月 29 日 (日) に青山学院大学青山キャンパスで開催されます。大会テーマは「大学の国際化とグローバル人材育成」です。基調講演は明石康先生 (公益財団法人国際文化会館理事長・元国連事務次長) に御願い致しました。全体シンポジウムには、大谷泰照先生 (大阪大学名誉教授)、本名信行先生 (青山学院大学名誉教授)、佐藤邦明先生 (文部科学省高等教育局国際企画専門官) に御願いを致しました。白熱した議論の応酬が期待できそうです。会員の皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

JACET 関東支部は、学会として社会の負託に応えられるよう、皆様の声を聴きながらさらに前進して行きたいと思っております。さらなるご支援・ご協力を切に御願い申し上げます。

第 2 回支部総会報告

支部事務局幹事

高木亜希子 (青山学院大学)

2013 年 11 月 9 日 (日) に、青山学院大学 9 号館 920 教室に於いて、2013 年度第 2 回支部総会が開催されました。支部総会では、2014 年度の事業計画、予算案、支部人事、関東支部規約の改訂の報告と承認が行われました。以下に内容を記載いたします (なお、予算案は省略)。

■2014 年度事業計画■

I. 大会、セミナー等の開催 (1 号事業)

(1) 支部大会の開催

名称: 2014 年度関東支部大会

日時: 平成 26 (2014) 年 6 月 29 日 (日)

場所: 青山学院大学

規模: 約 300 名

(2) 支部講演会の開催

名称: 青山学院英語教育センター・JACET 関東支部共催英語教育講演会

日時: 平成 26 (2014) 年 4 月、9 月、10 月、12 月、平成 27 (2015) 年 1 月の 5 回を予定

場所: 青山学院大学

内容:

- ・英語教育及び関連する分野にて、現在活躍中の研究者達による、最新の研究成果や知見を発表する講演会を定期的を実施する。
- ・英語教育をより実践に結びつけるため、実業界で英語コミュニケーションに携わっている専門家にも、講演を依頼する。

規模: 毎回約 60 名

(3) 支部月例研究会の開催

名称: 関東支部月例研究会

日時: 平成 26 (2014) 年 5 月、7 月、11 月の 3 回を予定

場所: 青山学院大学

内容:

- ・英語教育及び関連する分野にて、現在活躍中の研究者達による、最新の研究成果や知見を発表する講演会を定期的を実施する。
- ・英語教育をより実践に結びつけるため、実業界で英語コミュニケーションに携わっている専門家にも、講演を依頼する。

規模: 毎回約 40 名

II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行 (2 号事業)

(1) 『JACET 関東支部紀要』第 2 号 (英語名: *JACET-KANTO Journal*)

日時: 平成 27 (2015) 年 3 月 31 日

規模: 約 1150 冊

(2) 「JACET 関東支部ニューズレター」第 3・4 号

日時: 年 2 回程度

目的：支部活動の動向や支部会員への英語教育に関する情報提供と情報交換

※JACET 関東支部 HP に PDF 版で掲載

Ⅲ. その他（5号事業）

(1) 支部総会の開催

名称：2014年度第1回、第2回関東支部総会

日時：①平成26（2014）年6月

②平成26（2014）年12月

場所：青山学院大学

目的：①2013年度の関東支部の活動、会計報告、および2014年度の関東支部の活動計画、予算案および人事案を示す。

②2015年度の関東支部の活動計画、予算案および人事案を示す。

(2) 支部役員会の開催

名称：関東支部運営会議

日時：平成26（2014）年4月、5月、7月、9月、10月、11月、12月、平成27（2015）年1月、3月

場所：青山学院大学

目的：支部の運営における審議、計画の立案

■2014年度支部人事■

(1) 研究企画委員

2014年度は2年任期の2年目のため、2013年度と同じ。ただし、年度途中の新研究企画委員として3名を追加。

(2) 新研究企画委員

今井光子氏、長田恵理氏（2013年8月理事会承認）、奥切恵氏（2013年11月支部運営会議で承認・本部推薦予定）

■関東支部規約の改訂■

第3条 本支部は次の事業を行う。

（改訂前）

(1) 支部大会

(2) 月例会

(3) 年報の発行

(4) その他必要と認める活動や事業
（改訂後）

(1) 支部大会

(2) 月例研究会

(3) 紀要の発行

(4) ニュースレターの発行

(5) その他必要と認める活動や事業

第5条 本支部には次の役員を置く。

（改訂前）

(2) 副支部長 1名

（改訂後）

(2) 副支部長 2名

（改訂前）

付則 1. この規約は平成18年4月1日より施行する。

（改訂後）

付則 1. この規約は平成25年11月9日より一部改正し施行する。

月例研究会報告

月例研究委員会委員長

藤尾美佐（東洋大学）

■月例研究会11月報告■

日時：2013年11月9日（土）15:00-16:20

場所：青山学院大学9号館902教室

題目：ディクトグロス：気づきを通して思考力・判断力・表現力を育む協働学習

講師：佐野富士子（横浜国立大学）、甲斐順（神奈川県立柏陽高等学校）

ディクトグロスは、教材を聴き取り（リスニング）、学習者同士でディスカッションし（スピーキング）、メッセージを再現し（ライティング）、原文との比較を行う（リーディング）という、4技能統合型の学習法として、近年注目を浴びてい

る。また、学習者同士のグループ・ディスカッションやメッセージの再現過程で、学習者の気づきを誘発し、自律を高める、学習者中心の教授法としても注目されている。本研究会では、このディクトグロスを高校、大学教育にどのように取り入れ、どのように成果をあげることができるかの報告とともに、参加者も実際にディクトグロスを体験するという、実践型の講演となった。

ディクトグロスの実演では、参加者を2グループに分け、プレ・リスニング・アクティビティーとして、内容面に関する意識を高めるタスク（内容に関する質問など）と、形式面（たとえば関係詞などの文法項目）に関する意識を高めるタスクの2種類が与えられた。この講演の中では、どちらのグループもほぼ原文に近い内容のメッセージを再現していたが、前者（内容面の活性化）のタスクを行う方が、再現できるメッセージ量が多く、後者（形式面）は、タスクによって活性化された特定の文法項目の再現の頻度が高かった。

さらに Q&A のセッションでは、学生のアウトプットに対してどのような指導を行うか、教材は何度聞かせるか、その際教師による音読がいいのか、母語話者による CD を使う方がいいのかなど、実践的な内容が多く質問され、ディクトグロスに対する興味の高さをうかがえる熱い研究会となった。

青山学院英語教育研究センター・JACET

関東支部共催講演会報告

支部事務局幹事

高木亜希子（青山学院大学）

■青山学院英語教育研究センター・JACET 関東支部共催講演会（第3回）報告■

日時：2013年10月5日（土）15:00-16:30

場所：青山学院大学総研ビル第19会議室

題目：小学校英語の教科化に伴う課題

講師：アレン玉井光江（青山学院大学）

最初に、小学校英語教育の諸外国と日本の現状について概観された。諸外国では、国策として英語教育が取り組みされており、コミュニケーション能力と異文化対応能力などを育成するために、小中高一貫の明確な到達目標が設定されている。小学校においては、教科として週2回以上の時間が確保されており、担当教員も十分な研修を受けている。

次に、小学校英語教育教科化に伴う課題について、教員研修、小中連携、教科書（目標、シラバス）、評価、入試、成果の観点から説明がされた。アレン先生によれば、モノリンガルの環境で育つ子どもたちにとって、小学校で行われる外国語活動の経験は他文化や外国語学習に対して積極的な態度でのぞむかどうかを定める大変重要なものである。また、教師は、英語の適切な能力を有し、理解可能な英語を学習者に与え、学習者が自然に英語に接するよう指導できる必要がある。それにもかかわらず、現在日本では、教員養成や教員研修が圧倒的に不足している。

最後に、アレン先生ご自身が、公立小学校において4年間外部講師として指導を行った、リテラシープログラムの実践と研究の成果について報告された。本プログラムでは、Learning-centeredで意味のある文脈の中で、英語教育と音声を十分に育てながら、文字を統合する教育を目標とし、ボトムアップ的な指導と Joint Storytelling を中心としたトップダウン的な指導を行っている。指導の結果、リテラシースキルの面でも情意的な面でも成果がでており、中学校に進学しても、「英語の文字と音声に動じない」力となっていた。自ら小学校でリテラシープログラムの開発と実践をされ、地道に研究を積み重ねながら、日本の小学校英語教育の将来を真剣に考えておられる先生の姿に胸を打たれた。

■青山学院英語教育研究センター・JACET 関東支部共催講演会（第4回）報告■

日時：2013年12月14日（土）15:00-16:30
場所：青山学院大学総研ビル第19会議室
題目：ディスコース・ストラテジー：国際論文採
扱へ向けたアカデミック・ライティングの
アプローチ
講師：中谷安男（法政大学）

中谷先生は、海外の大学院で修士号・博士号を取得され、*TESOL Quarterly* や *Modern Language Journal* など複数の海外国際学会誌で豊富な査読経験をお持ちである。本講演では、これまでのご経験を踏まえ、アカデミック・ライティングの指導に不可欠であるディスコース・ストラテジーの活用方法と、国際論文採扱へ向けた論文執筆の具体的方法について、お話いただいた。

中谷先生によれば、査読者は論文を評価する際、一貫性（Coherence）と結束（Cohesion）に着目しており、「英文が読みやすいか」と「言いたいことが伝わるか」が重要となる。Cohesionを作るには、文の最初に話題の提示、文の後半に話題の説明をし、文末の新規情報と次の文の話題を関連づけて情報の流れを作る必要がある。また、文の流れがつかない時には、メタディスコースを配置し、読者の注意を引く。これらは、研究からも実証されている。第一著者がNative Speakerによる100本の学術論文で構築した約50万語のコーパスを分析したところ、7割の文が文頭に既知の情報を配置しており、残り3割のうち8割以上がメタディスコースを用いていた。

上記に加え、書き手の研究の立ち位置を明確にし、読み手を一定の流れに沿って誘導するために、「ムーヴ」の概念も重要となる。具体例として提示されたイントロダクションのムーヴは、分野の定義・重要性、未達成な課題の明示、その課題への対処の3つで構成され、それぞれ動詞の時制の選択にも注意が必要であることが指摘された。

実証研究に裏打ちされた具体的事例を分かりやすくご説明いただき、参加者の皆さん自身の研

究論文執筆スキルの向上のみならず、学生へのライティング指導にすぐに役立つ有意義な内容であった。

■青山学院英語教育研究センター・JACET 関東支部共催講演会（第5回）報告■

日時：2014年1月11日（土）15:00-16:30
場所：青山学院大学総研ビル第19会議室
題目：第二言語習得研究からみた語彙習得と指導
講師：望月正道（麗澤大学）

語彙指導は、教師の経験知に基づいて行われがちである。しかしながら、第二言語語彙習得研究の成果と照らし合わせると、教師の経験知は必ずしも当てにならない。本講演では主に、日本語訳の意義、新語と同時に同意語・反意語・派生語などを一緒に導入することの是非、未知語の推測、復習の4つのテーマについて、第二言語語彙習得研究の観点から、英語語彙指導のあり方についてお話しいただいた。

語彙指導の範囲として、語彙サイズを大きくする、単語一つを詳しく教える、単語のアクセス速度を速くする、の3次元がある。研究によれば、語彙サイズと語の知識の深さには高い相関関係があり、母語の知識の深さは第二言語にも転移されると考えられる。語彙を覚える際、文脈でも日本語訳でも語彙習得は同じ結果となり、その原因も母語の語彙知識の転移と考えられる。また、文脈から語の意味を推測できる条件として、98%以上が既知語の必要があるため、まずは語彙サイズを増やすことが重要であることが示唆された。

単語の記憶に影響する要因としては、処理の深さと頻度があげられる。効果的な単語の学習方法として Bahrck et al. (1993) による興味深い研究が紹介された。研究結果によれば、覚えた単語を再学習のリストから外すのはよいが、テストをする時には、再学習した語だけでなく、覚えた語も含めてテストすることで、長期記憶につながる

ことが明らかになった。

効果的な語彙指導として、導入（訳を与える、推測させる、辞書を引かせる）、定着（さまざまな活動、練習）、発展（ネットワーク形成）と、段階的にどのように指導を行うかの具体例も提示された。短い時間でありながら、第二言語語彙習得研究の成果と具体的指導法について包括的に話しいただき、自己の語彙指導のあり方を反省するとともに、今後の指導に役立てたいと感じた。

支部研究会活動報告（2013 年度）

各研究会代表

■教育問題研究会■

代表：久村研

1. 英語版 2012 年度報告書の発行

A Comprehensive Study on the Framework of English Language Teachers' Professional Development in Japan, edited by Hisatake Jimbo, Ken Hisamura, Yoshiko Usui, Masaki Oda, Leonid Yoffe. August 2013

2. 『言語教師のポートフォリオ』3 分冊の発行

発行日：2014 年 3 月 9 日（日）

分冊：【英語教師教育全編】【英語教職課程編】【現職英語教師編】

3. 2013 年度報告書の発行

書名：『英語教師のためのポートフォリオの普及と英語で授業を行う能力規準に関する実証的研究』（全 144 ページ）

発行日：2014 年 3 月 9 日（日）

4. 学会発表

- ・全国英語教育学会、北星学園大学、8 月 10 日—11 日、「英語教師の異文化授業力の実態と課題」：久村、栗原／「英語教育における CAN-DO リストの活用」：清田、酒井／「学習自律を育てる指導力」：酒井、清田
- ・関東甲信越英語教育学会、第 37 回長野研究大

会、松本歯科大学、8 月 17 日—18 日、「英語教員に求められる異文化授業力に関する一考—J-POTL 調査の結果を中心に—」：中山、栗原／「英語授業力のめやすの開発—2012 年度実施の全国調査結果から示唆されるもの」：山口、久村、酒井

- ・JACET 全国大会、京都大学、8 月 31 日—9 月 2 日、「成長する英語教師の育成を目指した実践書『英語科教育の基礎と実践』」：久村／“How should we use the Japanese Portfolio for Student Teachers of Languages? : Suggestions from the second annual survey”：高木／全体シンポジウム・パネリスト：神保

5. 講演

- ・6 月 29 日（土）児童英語教育学会（神保）

6. 言語教育エキスポ 2014 主催

日時：2014 年 3 月 9 日（日）

場所：早稲田大学 11 号館 4 階 会議室 1~4

内容：シンポジウム 1：小学校外国語活動：外国語学習の初めに学習者をどのように動機づけるか。基調講演：The theory and practice of intercultural communicative language teaching (iCLT)。シンポジウム 2：英語教員のための省察的ツールの意義—J-POSTL 完成版披露を兼ねて。シンポジウム 3：英語以外の外国語教育について。シンポジウム 4：文学指導は学習者をどのように動機づけるか。シンポジウム 6：実践と研究の架橋となる質的研究：英語教師による学びと変容。シンポジウム 7：異文化理解教育は学習者をどのように動機づけるか。シンポジウム 8：小学校英語教育の教科化について考える。その他個人発表、等。

参加者：約 360 名

■SLA（関東）■

代表：佐野富士子

JACET SLA 研究会では、「第二言語習得研究

と外国語教育への応用」をテーマとして研究活動を行いました。

1. 『第二言語習得と英語科教育法』(JACET SLA研究会 編著 開拓社)の活用

本研究会が2013年1月に刊行した『第二言語習得と英語科教育法』を実際に研究会会員が所属する大学の英語科教育法のテキストとして使用し、理論が実践に融合することを確認しつつ、読者からの反応を集めました。

その結果、学部生にもわかりやすい記述であることが確認でき、英語科教育法の授業が活性化するだけでなく、卒論のための先行研究を集めるリソースとして活用できました。英語教育の分野で卒論を書く学生の指導には、研究会が刊行した『文献から見る第二言語習得研究』(2005年 開拓社)および『SLA研究と外国語教育』(2000年 リーベル出版)も併用し、学部の卒論であっても修士論文レベルまたはそれに近いレベルまで引き上げることができました。本研究会による刊行物を活用することで、英語教育を専門とする学部生のレベル向上に効果があることを確認できたことが、本年度の成果のひとつです。

2. 公開輪読会開催

研究会発足以来、輪読会は研究会内で行っていましたが、今年は、第二言語習得研究とその教育への応用を実践の場へ広めるため、公開輪読会を8月24日(土)に横浜国立大学にて開催しました。参加者は、研究会会員で発表担当者6名の他、東京都、神奈川県内から大学の先生に加えて、多くの現職の中高の先生方(35名)が参加し、論文輪読の後のディスカッションにて有益な意見交換ができました。今後の参加希望が多数出たため、来年度は公開輪読会を年2回に増やして開催する計画を立てています。

3. 研究会会員の個人の研究の促進

研究会会員には各自の研究活動の場として科研費研究にも積極的に取り組むことを促しています。成果は全国大会や国際大会等で発表しました。

来年度も公開輪読会を中心に研究テーマを追求していきたいと考えています。

■テスト研究会■

代表：中村優治

1. 研究テーマ

今年度は「日本の英語教育のための Assessment literacy の一覧表作成」を研究のテーマとし、テストの本質的なニーズを基に、理論的、実践側面及び既存の教員採用試験のテスト分野関連問題からの情報を考慮して作成を試みた。さらに初版を分析・検討した。

2. 活動内容

(1)上記目標に沿うような形で、下記の言語テスト、アセスメントに関する書籍の読書会を行った。Coombe, C., Davidson, P., O'Sullivan, B. and Stoyhoff, S. (Eds.). (2012). *The Cambridge Guide to Second Language Assessment* の各章について、毎月の例会で担当の委員が発表し、ディスカッションを行った。

(2)ワークショップを開催し理論と実践の融合を図った。

学部及び大学院で英語科教育法を受講している学生を主たる対象として9月12日にワークショップを実施した。新学習指導要領の目標の一つである「統合的指導と評価」をテーマに掲げ、アセスメントの基本的な理論、構成概念、評価法、項目分析に関する講義、モデル授業、テスト作成、参加者が作成したテストや評価結果の分析を行った。

(3)学会発表において成果を共有し、分析・議論を深めた。

①書籍の読書会、過去の教員採用試験(教職教養の教育評価の部分)の分析、毎年開催されているワークショップに関する分析の結果をまとめ、8月に関東甲信越英語教育学会(松本)、9月にJACET年次国際大会(京都)、10月にはASIA-TEFL国際大会(フィリピン)において発表した。

②上記①に加え、2010年度に実施された教員採用試験（英語科）に出題された問題を分析、さらにワークショップ参加者のフィードバック、現場教員へ技能統合の評価に関するアンケート結果をまとめた。

(4)出版（研究活動をできるだけ記録として残している。）

- ・JACET Testing SIG 論文集 No.2: “Speaking Monograph (予定)”
- ・テスト研究会の年次報告書 No.2 の刊行 (予定)

3. 今後の活動予定

来年度は「Scoring validity: Rubrics for integrated-skills tests and rater-related variables」を研究課題に設定し、AILA 国際大会（ブリスベン）、JACET 国際大会（広島）、PAAL (Pan-Pacific Association of Applied Linguistics) 国際大会（東京）、そして JALT2014（筑波）で発表する予定である。

- ・昨年に引き続き夏に9月にワークショップを開催する予定である。
- ・来年度も引き続きテスト研究会の年次報告書と Monograph No.3 を刊行予定である。

■ 談話行動研究会 ■

代表：池尾玲子

談話行動研究会のキーワードは「国際」、「学際」といえるでしょう。

2013年度は6月に講演会、9月と3月に研究発表会を催しました。まず6月7日（金）立教大学招聘研究員として来日された Prof. Michael Hoey (University of Liverpool) を講師にお招きし、“Text & meaning: unforeseen discourse and lexical connections” というタイトルのもと、lexical priming とテキストの構造には深い相関関係があるということ、コーパスのデータを使ってお話いただきました。会員全員がコーパス言語学に精通しているわけではなかったのですが、Prof. Hoey のわかりやすい具体例と温かいお

人柄にひきつけられて、気がつけば講演の終わり頃には、一人一人が lexical priming を吸収し、活発な質疑応答が行われました。

9月17日（火）にはイギリス・ランカスター大学で PhD を取得された宇佐美裕子氏（武蔵野大学）による研究発表会を行いました。“How can corpora be applied to language testing?” という大学教員には大変関心の高いトピックで、皆様熱心に耳を傾けておられました。質疑応答はもちろん、そのあとのお茶の時間も宇佐美氏を囲んで、おおいに盛り上がりました。

そして最後3月1日（土）は大学院生2名による研究発表会を行いました。荻原まき氏（立教大学大学院）は「台湾原住民族の日本語の語りから見える『今ここ/過去』の重なり：指標性と類似性に注目した談話分析をもとに」というタイトルのもと、台湾で体当たりで集めてこられた貴重なインタビューの一端を、興味深い分析とともにご披露下さり、呼日楽巴因（フルルバト）氏（専修大学大学院）は「他者開始修復のイントネーションと認識的スタンス」というタイトルのもと、イントネーションと会話参加者の認識的スタンスについて、音声分析データを使って、会話の内容と数値的な観点両面から分析を加えられました。大学院生の参加者も多く、会全体がフレッシュな発表者からよい刺激を受けました。

これらの活動が示すように、談話行動研究会は、分野・経験を問わず様々な角度から談話行動、コミュニケーション、異文化理解にアプローチしております。研究会当日初めて参加する方も多くいらっしゃいます。海外で学位を取ったけれど、日本に帰国して、どこの研究会に所属したらよいのかとお迷いの際もぜひこちらの会に足をお運び下さい。きっと居心地よく感じていただける事と存じます。2014年度の研究会でお会いできますことを楽しみにしております。

■オーラル・コミュニケーション研究会■

代表：塩沢泰子

本年度は恒例行事であるオーラル・コミュニケーション・フェスティバル(OCF)の開催に加え、研究会会員による共著を出版した。また、年次大会ではシンポジウムを開催した。

6月に本研究会会員7名(塩沢・野村・大川・佐伯・原口・ホーランド・ムーディー)による著書『オーラル・コミュニケーションの新しい地平』を文教大学出版事務局より出版した(Amazonより購入可)。本書は、本研究会で1996年より毎年開催している、学生によるドラマやスピーチなどオーラル・コミュニケーション活動の発表・相互鑑賞の場である、オーラル・コミュニケーション・フェスティバル(OCF)を元に、発表に至る指導法や背景となる理論を詳述したものである。本書は、2002年に同研究会で執筆、出版してJACET実践賞を受賞した『オーラル・コミュニケーションの理論と実践』(三修社)の内容を刷新し、発表活動の映像DVDと台本も掲載した、実用的な専門書である。

JACET年次国際大会においては、研究会会員3名(塩沢・野村・佐伯)によるシンポジウムを開催し、“Drama Production as Effective Cooperative Learning”というタイトルでOCFの主要演目である、ドラマに焦点を当て、ドラマの上演とそれに至るプロセスがCooperative Learningであること、またドラマをOCFで上演することがその過程を含めて学生の英語力だけでなく総合的なコミュニケーション力などを養成していることを論じた。

2013年12月14日には本研究会の中心イベントである、OCFを富士常葉大学で開催した。今回は第19回となるもので、参加者は教員・学生を含めて約80名。今回は会の冒頭に全員でクリスマスにちなんだ詩“Twas the Night Before Christmas”をChoral Readingした。参加大学の指導者・演目は下記の通りである。

青山学院大(大川道代): Creative Drama “First Trip to Japan”, Narrative Theatre “The Diary”

文教大(塩沢泰子): Drama “Beauty & the Beast”
富士常葉大(原口友子): Speech “What I Learned from a Trouble in Paris”

日本大(金指崇): Educational Drama “Distinguishing similar consonants in English”
南山大(浅野享三): Readers Theatre “Going Home” written by Pete Hamill

神戸市外大(野村和宏): Drama “Super Nonsense Service?”

東京立正短大(中岡典子): Speech “The Emotional Meaning of Home”

東京工芸大(橘野実子): Presentations “Scenario Study Group”, “TRPG”

2014年度のOCFは文教大学(湘南校舎)で12月13日(土)に開催予定である。また、今年度は国際表現言語学会(IAPL: International Association of Performing Languages)と合同開催し、12月14日(日)にも研究発表やワークショップなどが実施される。英語教育のみならず、日本語、芸術、道德教育、さらには地域振興など様々な分野の教育・研究・実務に携わる方々の参加により、演劇ならびに演劇手法の可能性を追求する。表現活動という共通項が教育研究活動の広がり、つながりと新たな可能性をもたらせてくれることが期待される。興味のある方々の参加を歓迎する。

問い合わせは本研究会代表・塩沢泰子 yasuko@shonan.bunkyo.ac.jp へ。

■ESP(関東)■

代表: Robertson, Charlie

JACET SIG ESP研究会・関東は、2013年度は4月から2014年3月にかけて計5回の研究会を実施しました。一つの大きな改善事項として長年の課題であった新しいホームページ(<http://jacet-esp-kanto.org/>)の立ち上げを行い

ました。これまでは Mailing List (ML) により各例会の情報などを提供していましたが、ホームページを立ち上げたことによって、より多くの ESP に興味のある方々に研究会の活動を公開することが可能となりました。本研究会をより充実したものとするため、5 月には会員への研究会の内容や例会の回数などについての満足度や参加意向を確認するウェブ調査を行い、結果を HP 上で公開しています。また、これまでの ESP Annual Report Vol. 1-14 を PDF 版でダウンロードできるようにもなっています。例会においては、JACET-EBP Survey and Research Committee と IIBC (一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会) との共同発表や、今年度からの試みとして“Show & Tell” といった授業での activity や教授法を共有するというワークショップタイプの例会を行い、各会とも盛況に終えることができました。他 3 回の会員及び招待者のプレゼンテーションセッションでは意義深い意見交換の場を提供することができました。15 号となる Annual Report も完成し、今年は 3 点の論文 (査読有) と 5 編の研究ノートが掲載されています。さらに 2014 年 2 月に電気通信大のリサーチステーションによって開催された ESP 国際シンポジウムでは後援グループとしてサポート活動を行いました。

年度末時点での会員数は 59 名です。研究会への参加は毎回 8~15 名が平均で決して多くはありませんが、地道に ESP 領域の研究発表や学習を行っています。今後も発表や学習の場を提供し、ESP の研究および普及に貢献するとともに、会員同士の交流を促進したいと考えています。

■英語語彙研究会■

代表：磯達夫

英語語彙研究会では 2013 年度、以下の活動を行いました。

1. 例会の開催

2013 年度より、これまで開催してきた「読書会」を「例会」と改称し、以前の読書会を踏襲した活動に加え、新たにプロジェクト型の活動を行いました。開催日は下記の通りです。

2013 年 4 月 20 日 於：東京電機大学

2013 年 6 月 22 日 於：東京電機大学

2013 年 7 月 20 日 於：東京電機大学

2013 年 10 月 19 日 於：東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター

2013 年 12 月 14 日 於：東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター

2014 年 2 月 15 日 (大雪のため中止)

プロジェクト型の活動では、語彙習得に関連のある 3 つのプロジェクトを立ち上げ、参加者は毎回議論を重ねながら、それぞれ研究活動を行いました。本年度のプロジェクトは下記の通りです。

- A. 日本人 EFL 学習者の多義語に対する翻訳語データベース (プロジェクトリーダー：田頭憲二)
- B. Formulaic Sequence の処理速度：測定テストの開発に向けて (プロジェクトリーダー：磯達夫)
- C. The use of metadiscourse in essays written by Japanese university students (プロジェクトリーダー：小島ますみ)

また、毎回のプロジェクト会議後は、他のプロジェクトのメンバーに進捗状況を報告し、質疑応答の時間を設け、研究計画の見直しなどを行いました。

2. 年次研究大会 (英語辞書研究会との合同開催)

英語語彙研究会の年次研究大会は本年度で第 9 回目を迎えました。本年次大会は英語辞書研究会との第 4 回目の合同研究大会となりました。今大会は麗澤大学 (千葉県柏市) を会場とし、2014 年 3 月 8 日に開催されました。17 件の研究発表に加え、ヴィクトリア大学のジョナサン ニュートン博士による講演に約 50 名の参加者が集まりました。

■言語教師認知研究会■

代表：笹島茂

言語教師認知研究会はゆるやかに活動している研究会です。研究テーマは、「日本における言語教師認知研究の理論と実践の確立と実態調査」ですが、活動の枠に制限はなく、言語（英語）を教える人がそれぞれの課題について互いに共有し、考えましょうという趣旨のもとで活動しています。活動内容の詳細は、研究集録『JACET 言語教師認知研究会研究集録 Language Teacher Cognition Research Bulletin』(ISSN 2186-7585)を参照してください。冊子はウェブよりダウンロード可能です。主に関東支部で活動していますが、メンバーは全国にいます。メンバー以外の飛び入り参加も大歓迎です。

言語教師認知という用語には多少問題があり、誤解を生じやすいのですが、あまりむずかしく考えず、「Teacher research (教師による研究)」の一つの分野と考えてもらうと分かりやすいかもしれません。つまり、英語教育の領域で言えば、「英語教師が英語を教えながら自分を見つめ、他者を振り返り、さらに自己の探求を深め、よりよい教師として成長する」となるかもしれません。

授業に悩み、あるいは研究に行き詰まり、解決策がなかなか見つからないときに、研究会の案内を見てふと立ち寄ってください。また、話題にしたいことがあれば連絡ください。そのテーマに沿って気楽に話し合しましょう。研究会の案内は下記の研究会のウェブをご覧ください。

Language Teacher Cognition

<http://jacetsigonlrc.blogspot.jp>

連絡をお待ちしています。

■授業学研究会■

代表：馬場千秋

1. 研究テーマ

本研究会は、「大学におけるリメディアル英語授業のあり方」をテーマとしている。少子化、大

学全入時代に伴う大学生の学力格差が生じている大学英語教育の現状を踏まえ、学習意欲のない学生や英語を不得意とする学生への対処法とよりよい大学英語授業について探求している。また、「英語授業学」の理論構築のため、文献輪読を行っている。現在は、河野義章（2009）『授業研究法入門—わかる授業の科学的探究』（図書文化）を輪読しながら、ディスカッションを行っている。現在の会員数は15名である。

2. 活動内容

2013年4月13日（土）於：国際基督教大学
輪読およびディスカッション

レポーター：渡邊（金）泉、杉田千香子

2013年6月8日（土）於：マイスペース ニュー新宿3丁目店

輪読およびディスカッション

レポーター：仲谷都、油木田美由紀

2013年7月6日（土）於：マイスペース ニュー新宿3丁目店

輪読およびディスカッション

レポーター：馬場千秋、杉田千香子

2013年10月5日（土）於：マイスペース 飯田橋西口店

輪読およびディスカッション

レポーター：宮原万寿子、松原知子

2013年12月14日（土）於：マイスペース 四谷店
輪読およびディスカッション

レポーター：林千代、馬場千秋

2014年3月8日（土）於：マイスペース 中野北口店

輪読およびディスカッション

レポーター：杉田千香子、油木田美由紀

3. 今後の活動予定

2014年度は、新しい文献の輪読を始める予定である。また、英語授業学の理論と実践をまとめ、出版するための準備を始める予定である。また、関東支部大会や国際大会での発表に向けて、研究課題を進めて行く予定である。

■教材研究会■

代表：高橋貞雄

1. 活動内容

教材研究会は、過去数年にわたって大学生の基礎英語力について調査研究を行ってきました。大学教育の質保証が問われる中で、英語教育は何をどの程度保証すればよいのか。大学の入り口である新入生が英語力の根本である基礎文法（中学生・高校生で学習する文法）をどの程度修得しているのか、またその文法を活用してどの程度のことが出るのか、といったことを明らかにしたいと考えてきました。本年度は特に「日本文化を発信する」という観点から、基礎英文法の活用のあり方を探りました。日本文化に焦点を当てた理由は、学習指導要領において伝統文化を扱うことが求められているからであり、グローバル化の進展に伴い、学生が海外に出かけていく機会も増えている中で日本のことを英語で適切に伝えられないといったことがしばしば問題になるからです。研究手法としては、大学新入生に対してアンケート調査（テスト）を行い、1) 基本英文法を活用して日本文化に関する事柄をどれだけ表現できるか、2) 日本および日本文化の何を伝えたいと思うか、といった点を明らかにしました。結果は、本学会の国際大会で発表しました。

2. 今後の活動予定

次年度は基礎英語力の保証を課題としながらも、学生の信念“Student Belief”にメスを入れた研究を行いたいと考えています。大学生は、長年英語教育を受けてきた中で、また現在大学において英語の授業を受講している中で「英語」や「授業」にどのように向き合ってきた（いる）かを把握したいと思います。教師には教師の信念“Teacher Belief”があり、学生にとって良かれと思って到達目標を設定したり教材を選定したりしています。つまり、教師はいわばトップ・ダウン的に学生と対峙しているのが多くの場合の現状ではないでしょうか。英語教育の効率を良くし、

授業改善を行うためには、学生たちの視線に焦点を当てるのが大事だと思います。この研究の成果は国際大会での発表を通して、多くの先生方と共有したいと思っています。

支部アンケート結果報告

支部事務局幹事

高木亜希子（青山学院大学）

JACET 関東支部では、支部会員の皆さんのニーズを把握し、より充実した活動を推進していくにあたり、2014年2月17日から3月7日にかけて、オンラインでアンケートを実施いたしました。146名の会員の皆さまから回答をいただきました。ご協力いただいた先生方ありがとうございます。

下記にて、支部アンケート結果の要点をご報告いたします。支部では、アンケート結果を支部運営会議で検討し、できるかぎり、会員の皆さまのご意見を反映した支部の運営を行っていく予定です。

回答者内訳：専任教員（106）、非常勤教員（24）、大学院生（9）、その他（7）、合計（146）

■支部大会について

【1】支部大会に参加されていますか。

毎年参加（20）、ときどき参加（61）、参加なし（65）

【2】参加されていない理由はなぜですか。（複数選択可）

多忙のため（70）、遠いため（11）、プログラム内容に関心がないため（10）、その他（6）

【3】開催場所などについてどのような場所があるとよいと思いますか。（複数選択可）

交通の便がよい（140）、近年開催なしの場所（8）、その他（5）

【4】日程は何月がよいと思いますか。（複数選択可）

4月（5）、5月（27）、6月（45）、7月（19）、8

月 (40)、9月 (41)、10月 (22)、11月 (22)、
12月 (7)、1月 (1)、2月 (26)、3月 (69)

【5】 同時間帯の発表数について

増やし、他教室 (96)、減らし、1会場に大人数 (50)

【6】 プログラムの内容についてどう思いますか。

(複数選択可)

授業に役立つワークショップがあるとよい (83)、
研究方法についてのワークショップがあるとよい (88)、
最新の研究情報を知りたい (99)、魅力的な講演者を招いてほしい (69)、その他 (3)

■ 月例研究会及び共催講演会について

【7】 月例研究会及び共催講演会に参加されていますか。

よく参加 (9)、ときどき参加 (51)、参加なし (86)

【8】 参加されていない理由は何ですか。

多忙のため (78)、遠いため (9)、プログラム内容に関心がないため (12)、その他 (3)

■ 2012 年度から設定された支部会員メーリングリストについて

【9】 支部会員メーリングリストからの情報は役に立っていますか。

役に立っている (126)、あまり役に立っていない (20)

■ 今後について

【10】 今後 JACET 関東支部で扱ってほしいテーマは何ですか。(複数選択可)

a. 研究力向上のためのセミナー

リサーチデザイン (75)、統計処理 (77)、査読経験者を招いての講演 (51)

b. 授業力向上のためのセミナー

授業準備 (34)、授業内指導 (77)、授業外学習者指導 (37)

支部大会運営委員会からのお知らせ

支部大会運営委員長

山口高領 (早稲田大学)

今年も関東支部大会が開催されます。6月29日(日)に、昨年と同じく、青山学院大学青山キャンパスにて開かれます。大会テーマは、**Globalization in Higher Education and Human Resource Development** です。

基調講演には、明石康先生(公益財団法人国際文化会館理事長・元国連事務次長)、シンポジウムには、大谷泰照先生(大阪大学名誉教授)、本名信行先生(青山学院大学名誉教授)、佐藤邦明先生(文部科学省高等教育局国際企画専門官)が登壇されます。

研究発表や実践報告にもたくさんの応募があり、審議の結果、合計で25件となりました。

昨年度からの大きな変更点が2つあります。

1つは、賛助会員発表を新たにしたことです。これにより、賛助会員である企業の方々に、英語教材の活用法などを、教室を使っての発表という形式でJACET会員に伝えることができるようになりました。このリニューアルは、2013年11月上旬に早稲田大学で実施された JACET 英語教育セミナー「JACET 英語教育セミナーと教材展示—英語教材と指導法の今 (JACET Seminar and Exhibition—Current materials and methods in ELT)」にて好評だった、賛助会員による展示発表を参考に創設されました。

もう1つは、関東支部企画ワークショップの新設です。今回ワークショップを2つ開催します。午前は、法政大学の中谷安男先生に、論文の書き方に関連するものとして、「アカデミックライティングへのアプローチ：国際ジャーナルへ採択される方法」をお願いいたしました。午後は、青山学院大学の武田礼子先生に、質的研究方法に関連したものとして、「TESL/TEFLにおける会話分析：事例紹介とワークショップ」をお願いできる

こととなりました。

最後にお願いがございます。JACET 会員の方は、事前に大会参加費を振り込んで頂けると、少しでもお安くなるだけでなく、大会運営としても当日の手間が減るため、大変助かります。支部大会でお会いできることを楽しみにしております。

支部紀要編集委員会からのお知らせ

支部紀要編集委員長
伊東弥香（東海大学）

2014年3月にJACET 関東支部・紀要第1号（*JACET-KANTO Journal Vol.1*）を発行いたします。今回は特別寄稿1、研究論文1、研究ノート3の計5本の掲載となりました。支部会員の皆様のお手元には、第8回関東支部研究大会プログラムと一緒に4月中旬頃にお届けする予定です。次回第2号は、2014年7月20日応募原稿締切、2015年3月発行予定です。投稿規程については、第1号紙面、または関東支部ホームページにて情報を適宜アップしますので、是非、皆様のご投稿をお待ちしています。

事務局だより

支部事務局幹事
高木亜希子（青山学院大学）

■青山学院英語教育研究センター・JACET 関東支部共催講演会及び月例研究会開催のお知らせ■

下記のとおり、共催講演会及び月例研究会を実施いたします。多くの皆さまの参加をお待ちしております。詳細は支部 HP、支部会員 ML でお知らせいたします。

(1)2014 年度第 1 回共催講演会

日時：2014年4月12日（土）16:00-17:30
場所：青山学院大学総研ビル 11 階第 19 会議室
題目：CLIL が切り拓く日本の英語教育
講師：池田真（上智大学）

(2)2014 年度月例研究会（5 月）

日時：2014年5月10日（土）16:00-17:20

場所：青山学院大学総研ビル 11 階第 19 会議室

題目：言語能力とコミュニケーション能力の落

差：コミュニケーションを成功に導く能力とは？

講師：藤尾美佐（東洋大学）

■住所変更届提出のお願い■

支部会員の皆様に、支部大会のご案内や支部紀要を確実にお届けするために、転居の際には、[JACET 本部事務局](#)へ住所変更届けを提出してくださいませよう、どうぞよろしく願いいたします。

■支部運営会議、月例研究会、共催講演会開催時間変更のお知らせ■

2014年4月より、開催時間を以下のとおりに変更いたします。

支部運営会議	14:45-15:45
月例研究会	16:00-17:20
共催講演会	16:00-17:30

JACET-Kanto Newsletter 第2号

発行日：2014年3月31日

発行者：JACET 関東支部（支部長 木村松雄）

編集者：高木亜希子、下山幸成、斎藤早苗、
川口恵子

発行所：〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
青山学院大学文学部英米文学科
木村 松雄 研究室内